

# I 今年度の研究について

## 1 研究テーマ

### 自立活動・時間における指導の授業づくり（2年次）

～児童生徒の的確な実態把握を行うための手立てや方法を学び、指導の内容充実を目指す～

## 2 全体研修

	研修日	内容	講師	様子
1	4/24	今年度の研究の方向性について	研究研修部	
2	5/16	アセスメントの概要と 新版 S-M 社会生活能力検査 LC スケールについての説明	埼玉大学教育学部附属 特別支援学校 遠山 秀雄 氏	 <p>教員同士で LC スケールを実践しました。</p> 
3	6/26	初期社会性発達支援プログラムの理論と実践から	筑波大学附属大塚 特別支援学校 中村 晋 氏	 <p>ビデオを見せていただき、初心者でも分かりやすい講義をしていただきました。</p> 
4	10/16	学校内 中間報告	本校 校長 川勝 義彦 氏	 <p>小学部、中学部、高等部、「自立活動・時間における指導」では、どのような指導に取り組んでいるのか発表し合いました。</p>
5	2/20	学校内 研究報告会	群馬大学 霜田 浩信 氏	<p>「自立活動、時間における指導」の授業公開をしました。全教員に指導略案を書いてもらい、授業時間を学部で調整し、多く教員に授業参観をしてもらうよう体制を工夫しました。</p> <p>学部を越えて授業を見合う機会がなかったため、刺激ある研修となりました。</p> <p>報告会では、霜田先生から実態把握のポイントを学び、学び多い研修報告会でありました。</p>

### 3 まとめ

#### (1) 成果

「児童生徒の的確な実態把握を行うための手立てや方法を学び、授業内容の充実を目指す」をテーマの副題とし、各学部研究に取り組んだ。

まず、5月の全体研修では、実態把握の基本を学ぶことができ、どのように実態把握を進めていくのか等のポイントを全校で共通理解できた。

また、実態把握するための検査として、「新版S-M 社会生活能力検査」と「LC スケール」を提案し、実施した。このことで、教員の行動観察に基づく児童・生徒像ではなく、客観的なデータを含めた総合的な実態把握の仕方を学ぶことができた。

重複学級の肢体不自由のある児童生徒には、上記の検査の他に、理学療法士の協力のもと関節可動域の測定を実施した。また、他にどんな実態把握の方法があるのか調べ、検証した。

今回の学校研究で、①的確な実態把握をする ②実態把握からどのような課題が見えたのか考え、目標を設定する ③課題を解決するためにどのような指導内容に取り組むのか の3つに迫る研究を各学部で進め、自立活動・時間における指導の充実を目指した。中間報告では、各学部の実践報告をした。報告では、「保護者からの情報」と「行動観察」と「検査」から実態を把握した例が出されて、他の教員の参考になったと考える。

今後も学校研究を通して、教員の指導内容の質を高めることを目指すために、教員が「自分は的確な実態把握をした上で、児童生徒にとって有効な指導を考えることができたのか？」と自ら問い直す機会を作っていきたいと考えている。

#### (2) 課題

検査についての研修をしたが、教員の専門性は必要であると考えている。また、検査を実施したが、その結果を活用するまでに至らなかった教員が多くいることもアンケート結果からわかった。「児童生徒の実態をどのように読み取り、どのような課題があると見出し、更にどのような指導内容を行うのか」、この一連の流れをもう一度改める必要があるだろう。教材ありきの考えを脱却し、児童生徒にとっての課題が何なのか全教員が考え直す必要がある。

重複学級においては、LC スケールやS-M 社会生活能力検査では重複する障害種に応じた判定をすることが難しかった。しかし実態把握には客観的視点も必要であることから、LC スケールの他に障害に応じた検査方法を選定し、課題を見出すことが適当ではないかと考える。

来年度は自立活動・時間における指導が全学部に導入されて、2年目である。「自立活動・時間における指導の授業づくり」のテーマとしては、最終年度でもある。「総合的な実態把握の必要性」は大きく変えず、検査等を用いた総合的な実態把握をすることについては来年度も実施したいと考えている。そこから見えてきた児童生徒の実態を、授業としてどのように取り組むべきなのかを考え深められる全校的な研究活動を進めていきたいと考えている。

「教員として何をすべきなのか」「児童生徒が何に取り組むべきなのか」「教員として何を取り組ませるべきなのか」教員は常に考えなくてはならない。研究研修を通して、教員の専門性の向上を図り、自立活動・時間における指導の授業が充実することを期待している。授業力の向上は、児童生徒の成長につながり、本校の強みとなることを願っている。

2014年2月

研究部

小学部	長谷川歩	吉沢奈々絵
中学部	小林明日香	高橋知美
高等部	池田優希	小滝奈々
		柴田佐知子